

1 アンケートの概要

目的 調布市立図書館では、市民に占める有効登録者の割合や個人貸出数に表れているように、利用の減少傾向が続いており、より多くの市民（在住、在勤、在学）に図書館が利用されるよう、事業の充実を図るとともにPRに努め、利用を促していく必要がある。市民の意識・行動を調査することにより、市民のニーズを把握し、今後の図書館運営に活用する。

○**調査期間** 令和6年2月5日（月）から26日（月）まで

○**調査対象** 在住、在勤、在学の方（調布市立図書館を過去1年間利用していない方（未利用者）、過去1年間で1度以上利用した方（利用者））

○**調査方法** 市報、掲示物、チラシを利用したインターネット回答フォームからの回答、各図書館で紙の調査票を配布・回収

○**回答件数** 調布市立図書館を過去1年間利用していない方 97件、過去1年間で1度以上利用した方 854件 合計951件

2 アンケート結果

(1) 未利用者

○**どんな時に本や雑誌を読みますか。**

- 1 時間があるとき（62%）
- 2 書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき（46%）
- 3 新聞や雑誌、テレビなどのメディアで知ったとき（45%）
- 4 困りごとや生活に関する調べもの、情報収集をするとき（41%）

○（ほとんど読まない以外を選択した方に質問です。）

この1年間で調布市立図書館を利用しなかった理由は何ですか。

- 1 忙しくて行けない（36%）
- 2 本や雑誌は自分で買う（33%）
- 3 利用方法・場所がわからない（17%）

○**図書館にどのようなサービスがあればよいと思いますか。**

- 1 駅や商業施設での本の貸出・返却サービス（35%）
- 2 自習や仕事ができるスペース（29%）
- 2 フリーWi-Fiでのインターネット接続サービス（29%）
- 4 電子書籍の提供（26%）
- 5 静かに読書できるスペース（23%）
- 5 おしゃべりや飲食ができるスペース（23%）

○**あなたが今興味のあるテーマは何ですか。**

終活、日本史、子育て、子ども、老後、調布市、ミステリー、健康、投資、歴史 など

○**図書館で実施してほしい企画**

- ・小説、ドラマや映画で話題に挙がった時代にまつわる本や当時の人気のあった本の紹介
- ・鬼太郎や花火大会など地元特有の展示
- ・作家さんの講演会
- ・小学生が図書館に気軽に出入りでき、居場所となるような企画。
- ・本屋大賞のような企画（（仮）図書館大賞）など

(2) 利用者

○**どんな時に本や雑誌を読みますか。**

- 1 書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき（56%）
- 2 時間があるとき（55%）
- 2 新聞や雑誌、テレビなどのメディアで知ったとき（55%）
- 4 困りごとや生活に関する調べもの、情報収集をするとき（53%）

○**図書館を利用した目的は何ですか。**

- 1 予約した資料の受け取り（79%）
- 2 館内の本や雑誌を見て、選んで借りるため（73%）
- 3 館内で新聞・雑誌・本を読むため（22%）
- 4 子どもに本を読ませるため（15%）
- 5 自分で調べものをするため（14%）

○**今後図書館に期待することは何ですか。**

- 1 駅や商業施設での本の貸出・返却サービス（28%）
- 2 自習や仕事ができるスペース（27%）
- 3 静かに読書できるスペース（26%）
- 4 難易度や好みに合わせた本の紹介（22%）
- 4 フリーWi-Fiでのインターネット接続サービス（22%）
- 4 電子書籍の提供（22%）
- 6 閲覧スペースの拡大（16%）

○**あなたが今興味のあるテーマは何ですか。**

健康、料理、終活、ウクライナ、歴史、子ども、子育て、パレスチナ、投資、老後、介護、絵本、教育、NISA、イスラエル、戦争、育児、防災、生き方 など

○**図書館で実施してほしい企画**

- ・作家、編集者、詩人、絵本画家等作り手の講演会、読書会、トークイベント
- ・本の紹介（司書おすすめ、市民おすすめ募集、年代・属性ごとのおすすめ、など）
- ・市民同士の交流（おすすめ本の紹介、読書会など）
- ・好みを図書館員に伝えて数冊選んでもらえるようなサービス
- ・子ども向けイベント（ワークショップ、バックヤードツアーなど）

3 所見

○未利用者・利用者ともに、本を読むのは、時間があるときや、書店や図書館の書棚を眺めて目についたときとなっている。また、未利用者で、図書館を利用しなかった理由として、利用方法・場所がわからない方が17パーセントいらっしゃり、まずは図書館にきていただけるよう、広報・周知の充実、サービス・企画について検討していく必要があると考える。
→アンケート結果をもとに、ハード・ソフト面から図書館サービスを検討していく。